

## 漆塗り（髹漆）

髹漆とは、日本の伝統工芸において、漆を塗る工程の総称である。旋盤や竹編みなど素地（下地）を整える技法も含まれるが、絵付けや象嵌などの装飾技法とは区別される。

17 世紀、藩の間の競争により、各地に漆器の伝統が生まれた。1974 年に重要無形文化財に指定された「髹漆」は、漆塗りに関わる独自の道具や技術など豊かな文化を生み出した。

「髹漆」の技法は大きく分けて、木地に直接漆を塗る方法と、素地（下地）をつくり、その上に漆を塗り重ねる方法に分けられる。この 2 つの方法は、仕上がりの外観だけでなく、出来上がった製品の耐久性や耐熱性などの機能的な特性にも影響を与える。

漆は、難易度の高い素材である。漆は、ウルシオールという成分が空気中の酸素と反応して光沢を出す。この反応は温度や湿度の変化に弱い。漆は何度も、時には何百回も塗り重ね、その間に十分に硬化させる必要がある。また、多くの技法では、漆を塗る間に研磨する必要がある。濡れた漆に埃やゴミが上塗りを損なわないように注意も必要だ。このように、漆は完成までに数ヶ月または数年かかることもある。